

【報道関係各位】

**東日本大震災から3年、国民の意識の変化とは一
定点レポート第2弾 震災白書 2014**

- 地震・災害への備え「日用品・水・食料品の備蓄」が最多。
東北3県では「車のガソリン補充」が上位に
- 東日本大震災に関する情報、7割の人が以前に比べ「減っている」
- 行ってみたい東北地方の観光地 1位:蔵王温泉
東北3県の地元人おすすめの観光地 1位:松島

2014年2月13日
株式会社マクロミル
(証券コード: 東証一部 3730)

株式会社マクロミル(本社:東京都港区、代表:杉本哲哉)は、全国と東北3県在住の20~69歳の男女を対象に、「東日本大震災に関する調査」を実施しました。調査手法はインターネットリサーチ。調査期間は2014年1月30日(木)~1月31日(金)。有効回答数は全国1,035名、東北3県(宮城県・福島県・岩手県)520名。

【調査のねらい】

2013年2月、マクロミルは東日本大震災に関するデータ集『震災白書2013』を発表いたしました。ここでは、2011年に起きた東日本大震災の被災地の現状と被災者の心境を把握するとともに、被災地以外の地域に住む人達の意識や生活変化を調査しました。

東日本大震災から3年を迎える今年も『震災白書2014』として、東日本大震災後の生活の復旧状況や被災地への支援状況、日ごろの地震に対する備えなどを調査しました。また、東日本大震災に関する情報は以前に比べてどう変化しているかについてもまとめています。マクロミルでは東日本大震災を風化させないために、また復興への足がかりとなるデータとして、今後も本調査を継続的に実施し蓄積していく予定です。

【調査内容】

- ・東日本大震災後の生活変化
- ・情報メディアへの接触
- ・被災地支援状況
- ・東北地方のイメージ
- ・全国からのメッセージ

【サイトURL】

http://www.macromill.com/r_data/20140213shinsaihakusyo/index.html

【調査対象】

日本全国

調査方法：	インターネットリサーチ
調査地域：	全国
調査対象：	20歳～69歳（マクロミルモニタ会員）
有効回答数：	合計 1,035 サンプル ※平成 22 年度の人口動態に基づき構成
調査日時：	2014 年 1 月 30 日（木）～1 月 31 日（金）
調査機関：	株式会社マクロミル

東北 3 県 ※全国にも東北 3 県のサンプルが含まれていますが、詳細に分析するためにサンプルを確保しています。

調査方法：	インターネットリサーチ
調査地域：	東北 3 県（宮城県・岩手県・福島県）
調査対象：	20歳～69歳（マクロミルモニタ会員）
有効回答数：	合計 520 サンプル ※平成 22 年度の人口動態に基づき構成
調査日時：	2014 年 1 月 30 日（木）～1 月 31 日（金）
調査機関：	株式会社マクロミル

【目次】

I	東日本大震災後の生活変化	……P. 3
	I-1 生活の復旧状況	
	I-2 日常生活で不便を感じていること	
	I-3 不安を感じていること	
	I-4 地震・災害に対する備え	
	I-5 定住意識	
II	情報メディアへの接触	……P. 8
	II-1 メディア接触	
	II-2 災害発生時に注目している情報源	
	II-3 災害発生時の情報発信	
III	被災地支援状況	……P. 11
	III-1 被災地の復興状況関心度	
	III-2 被災地の復興情報入手手段	
	III-3 東日本大震災に関する情報の増減について	
	III-4 被災地への支援行動	
	III-5 被災地で不足している支援行動	
IV	東北地方のイメージ	……P. 16
	IV-1 東北地方のイメージ	
	IV-2 東北地方への観光意向	
	IV-3 東北地方で行ってみたい・行ったことがある・おすすめしたい観光地	
	IV-4 世界に対して日本が誇れること	
V	全国からのメッセージ	……P. 20



【調査結果詳細】

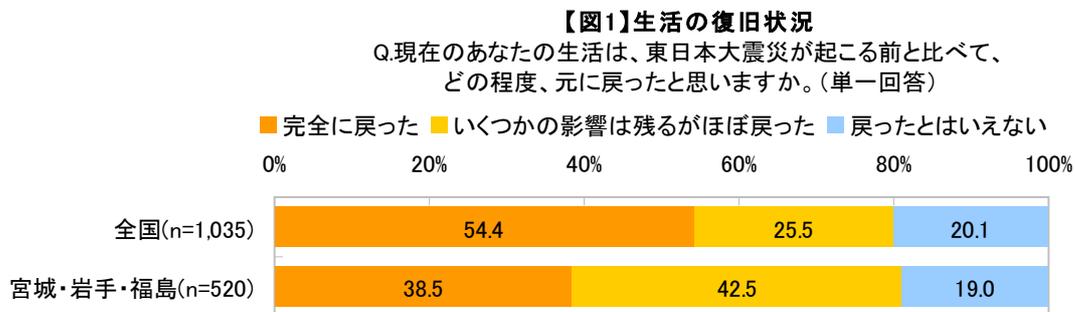
I-1 生活の復旧状況

■ 日常生活が東日本大震災前の状態に「完全に戻った」全国 54%、東北 3 県 39%と乖離

東日本大震災からまもなく 3 年を迎えようとしている現在、日常生活はどの程度震災前の状態に戻ったと思うか尋ねました。

全国では、「完全に戻った」と思う人が 54%を占めたのに対し、東北 3 県では 39%にとどまりました。また、「いくつかの影響は残るがほぼ戻った」と思う人は全国で 26%、東北 3 県では 43%と、ここでも全国と東北 3 県での乖離が見られました。

一方で、「戻ったとはいえない」と回答した人はいずれも約 20%を占め、いまだ震災の爪痕が残っていることがうかがえます。【図 1】



I-2 日常生活で不便を感じていること

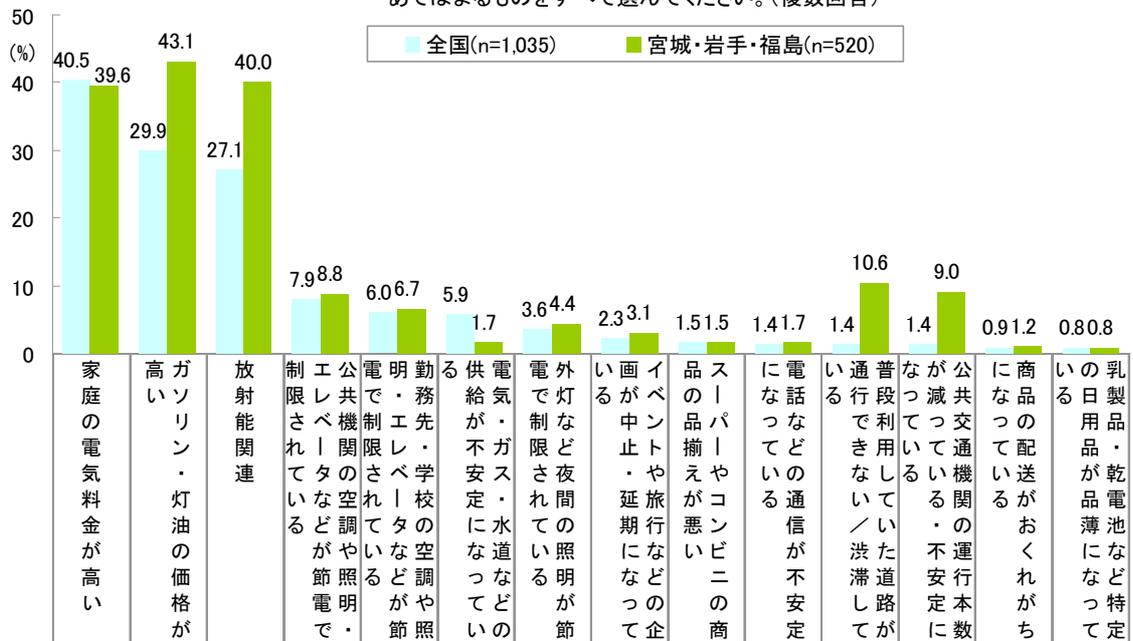
■ 日常生活で不便を感じていること、東北3県は「ガソリン・灯油価格が高い」が13ポイント増

東日本大震災の影響で、現在、不便を感じていることがあるかを尋ねました。その結果、全国は「家庭の電気料金が高い」41%「ガソリン・灯油の価格が高い」30%、「放射能関連」27%となりました。

東北3県では、「ガソリン・灯油の価格が高い」が43%、次いで「家庭の電気料金が高い」41%、「放射能関連」40%となりました。

2013年調査と比較すると、東北3県では「ガソリン・灯油の価格が高い」が13ポイント高くなっており、生活の厳しさがうかがえます。【図2】

【図2】日常生活で不便を感じていること
Q.現在、東日本大震災の影響で不便を感じていることはありますか。
あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)



<参考:2013年調査> 全国(n=1,041)	36.7	26.0	-	10.1	8.4	7.4	4.4	2.8	2.0	-	1.8	-	-	1.4
<参考:2013年調査> 宮城・岩手・福島(n=514)	24.9	40.3	-	12.3	12.3	2.3	5.6	5.8	2.1	-	13.4	-	-	0.6

※「-」は前回の調査にはない項目を示す。

I-3 不安を感じていること

■ 日常生活の不安「大地震・津波の発生」が63%と最多

東日本大震災に関連した災害や影響に対して、どのような不安を感じているかを尋ねました。

全国、東北3県ともに「大地震・津波の再発生」が63%で最多、次いで「増税」（全国52%、東北3県61%）となりました。

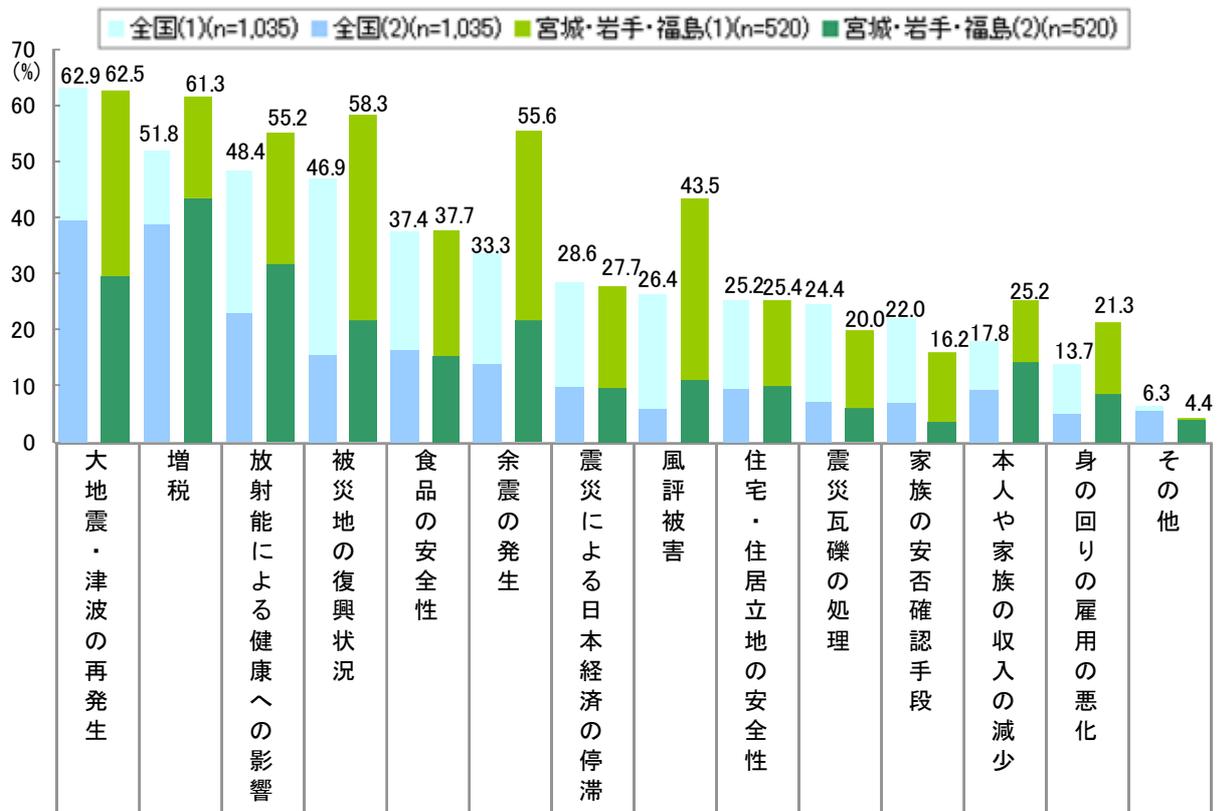
また、東北3県では「余震の発生」が56%、「風評被害」が44%となっており、東日本大震災から3年経った現在でも、多くの面で不便を感じている様子がうかがえます。【図3】

【図3】日常生活で不安を感じていること

Q.あなたは東日本大震災に関連した災害や影響に対してどのような不安を感じていますか。

(1)あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

(2)その中で、最近不安が増したものをすべて選んでください。(複数回答)



I-4 地震・災害に対する備え

■ 地震・災害への備え「日用品・水・食料品の備蓄」が最多。東北3県では「車のガソリン補充」が上位に

地震や災害に対する備えとして、どのようなことを行っているかを尋ねました。

全国・東北3県ともに「日用品・水・食料品の備蓄」が最多（全国40%、東北3県57%）、次いで「家具や家電等の転倒・落下防止」（全国28%、東北3県43%）になりました。

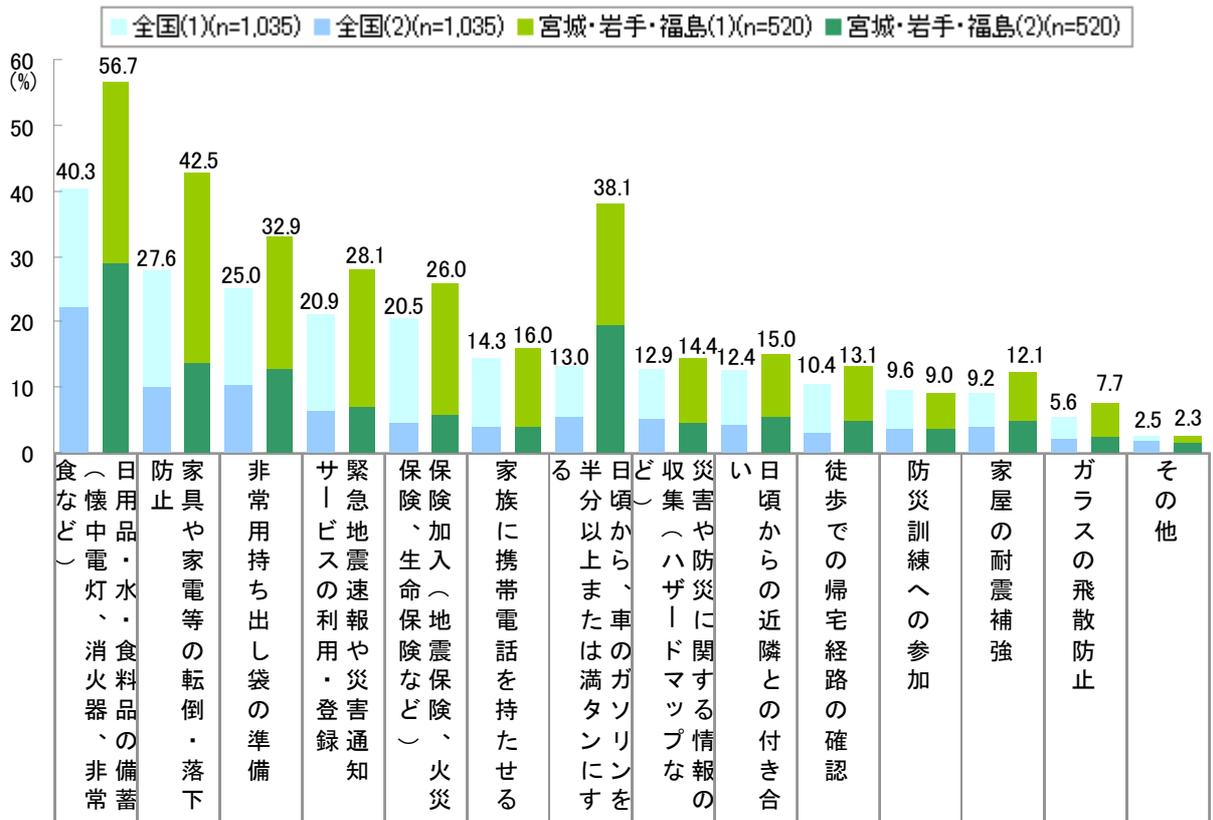
東北3県においては、「日頃から、車のガソリンを半分以上または満タンにする」と答えた人が38%となっており、東日本大震災での教訓が東日本大震災から3年が経過した現在に活かされていることがうかがえます。【図4】

【図4】地震・災害に対する備え

Q.あなたは、地震・災害に対する備えとして、どのようなことを行っていますか。

(1)行っているものすべて選んでください。(複数回答)

(2)その中で、最近1年以内に強化したものをすべて選んでください。(複数回答)

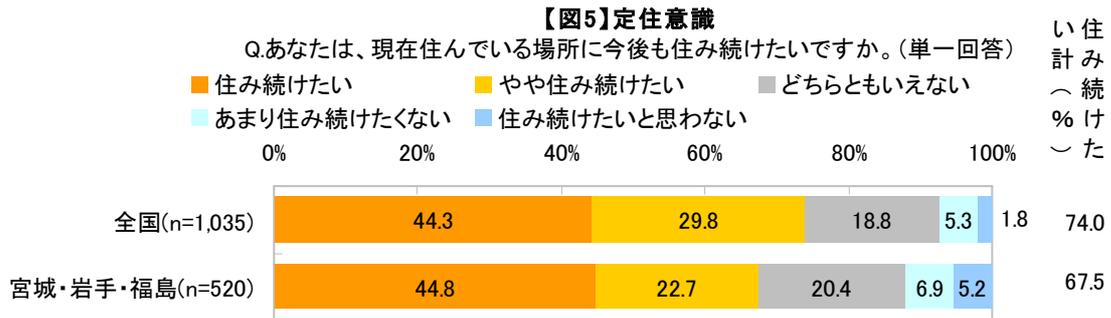


I-5 定住意識

■ 約7割が現在住んでいる場所に「住み続けたい」

現在住んでいる場所に今後も住み続けたいかどうかを尋ねました。

「住み続けたい」（住み続けたい+やや住み続けたい）と回答した人は全国で74%、東北3県で68%と、いずれも約7割の人が定住意識を持っていることがわかりました。【図5】



II-1 メディア接触

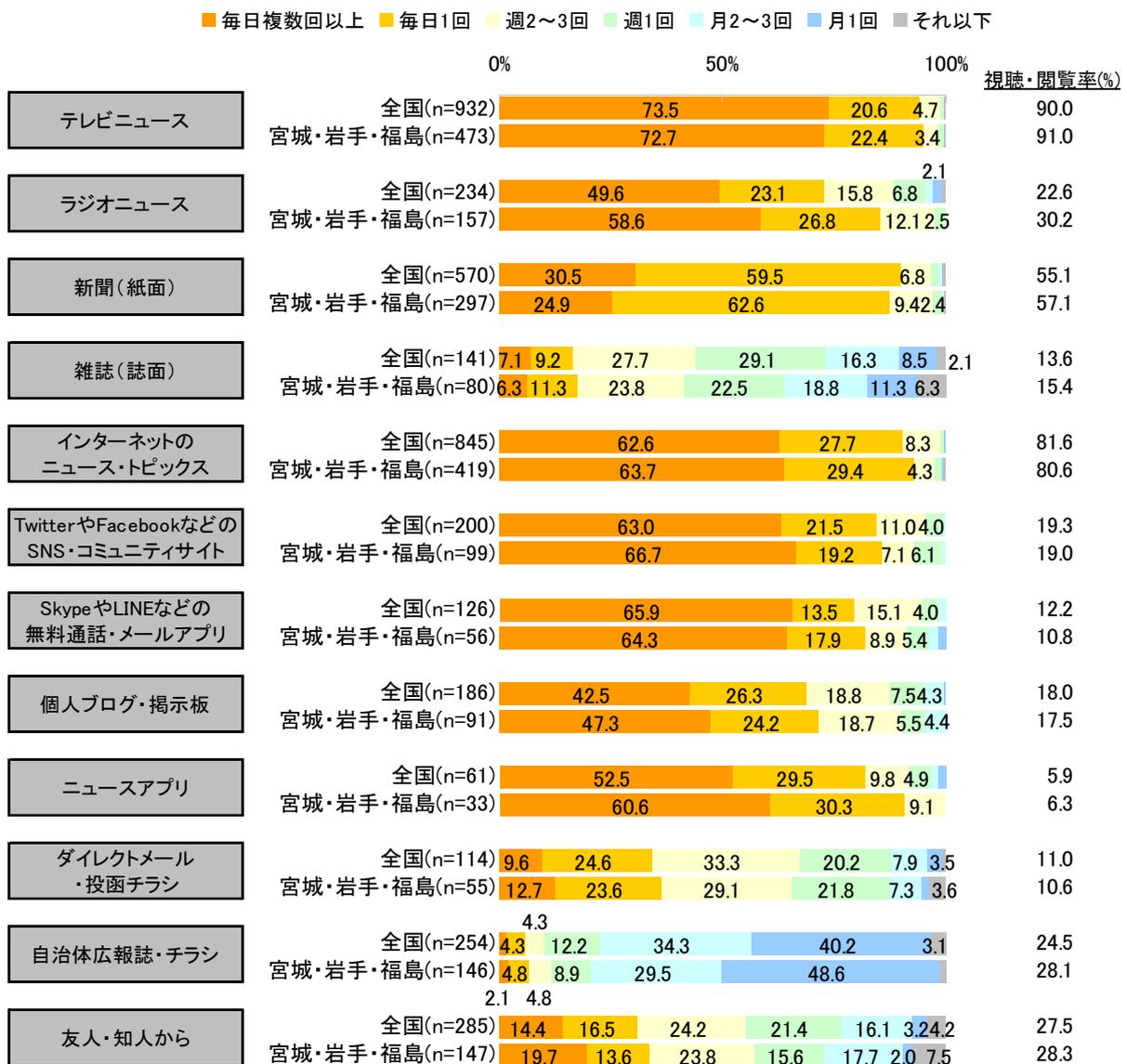
■ 普段視聴しているメディアは「テレビニュース」、視聴率は約90%

下記の各メディアを視聴・閲覧している人を対象に、普段のメディア接触状況について尋ねました。全国・東北3県ともに「テレビニュース」の視聴・閲覧率は約90%、さらに「毎日複数回以上見る」と回答した人はいずれも7割以上となっていることから、テレビニュースの影響力の大きさがうかがえます。

また「インターネットのニュース・トピックス」も視聴・閲覧率が約80%、「毎日複数回以上見る」と回答した人も6割以上となっており、テレビニュースに次ぐ影響力が推測できます。【図6】

【図6】メディア接触

Q.あなたは次にあげるような情報に普段どの程度接触していますか。
それぞれについて近いものをお選びください。(単一回答)



※各メディアの視聴・閲覧者ベース
※2%未満のスコアは非表示

(基数は全国=1,035/宮城・岩手・福島=520)

II-2 災害発生時に注目している情報源

■震災発生時に注目している情報源は「テレビニュース」

震災・災害発生時に注目している情報源は何かを尋ねました。

全国、東北3県ともに「テレビニュース」が80%以上で最も高く、次いで「インターネットのニュース・トピックス」が60%前後となりました。

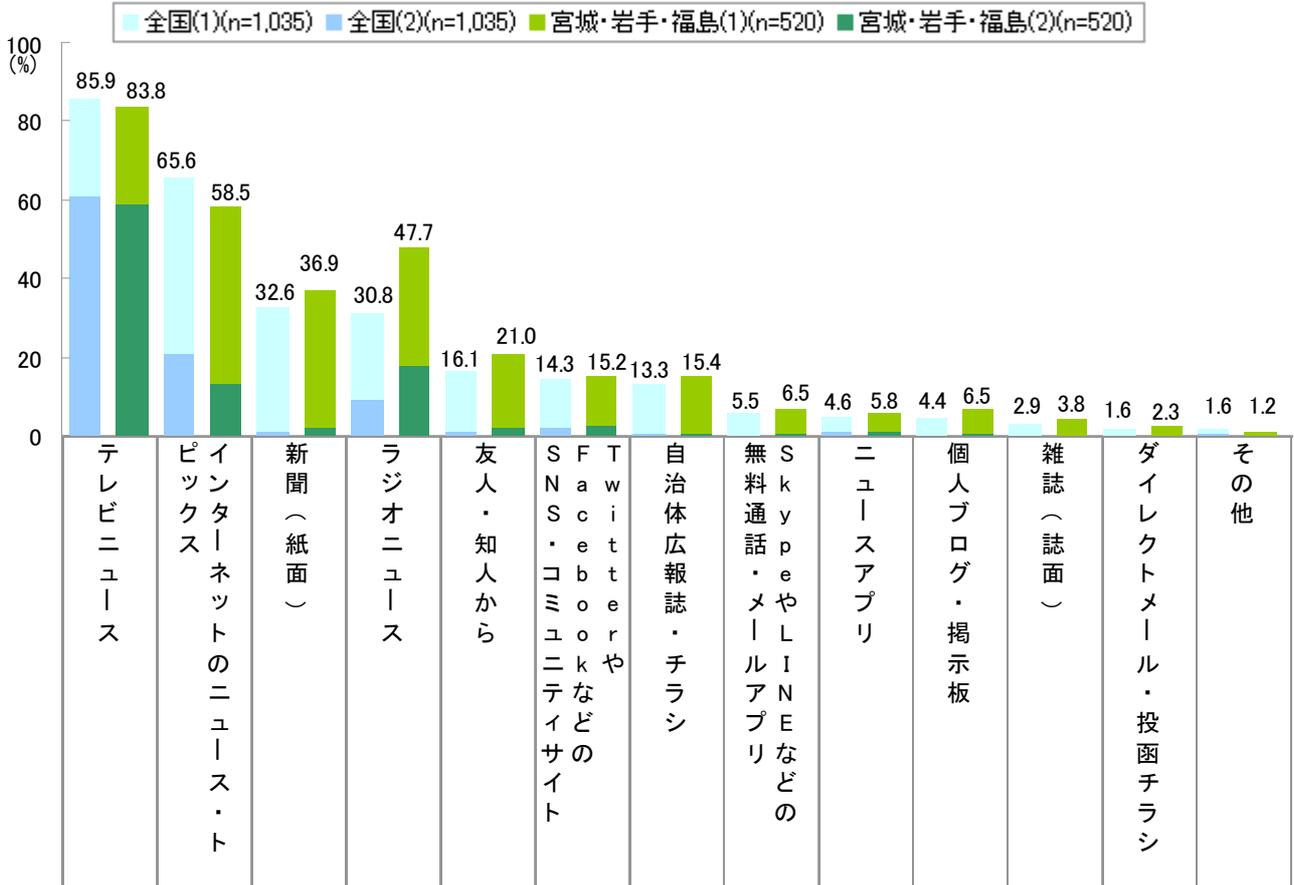
一方、東北3県では「ラジオニュース」が48%と全国に比べ17ポイント高く、東日本大震災の経験が反映されていることが推察されます。【図7】

【図7】震災発生時に注目している情報源

Q.(1)地震・災害発生時に注目している災害／

防災情報源として、あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答)

(2)また、その中で一番初めに情報を求めるものを、ひとつだけ選んでください。(単一回答)

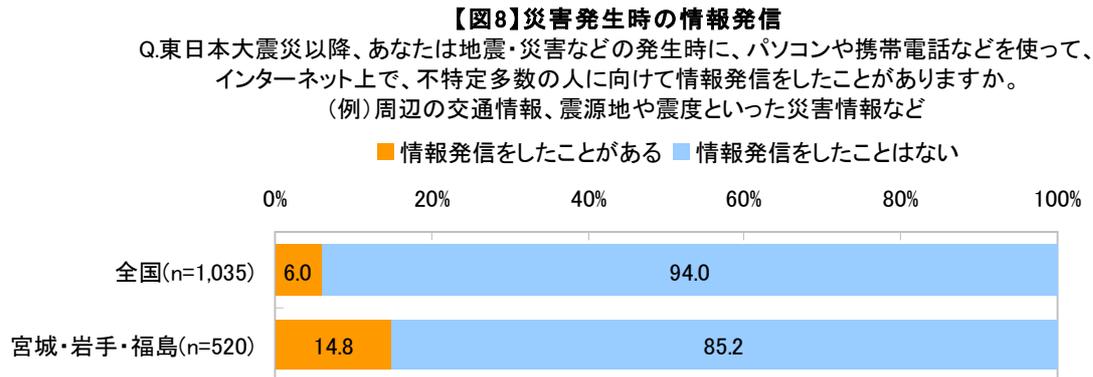


II-3 災害発生時の情報発信

■震災発生時に「情報発信したことがある」東北3県で15%

2011年3月11日の東日本大震災発生時、Twitterでの情報発信、受信が話題になりました。実際に東日本大震災以降、パソコンや携帯電話を使ってインターネット上で不特定多数の人に向けて情報発信したことがあるかどうかを尋ねました。

実際に「情報発信したことがある」人は全国で6%、東北3県では15%となりました。【図8】

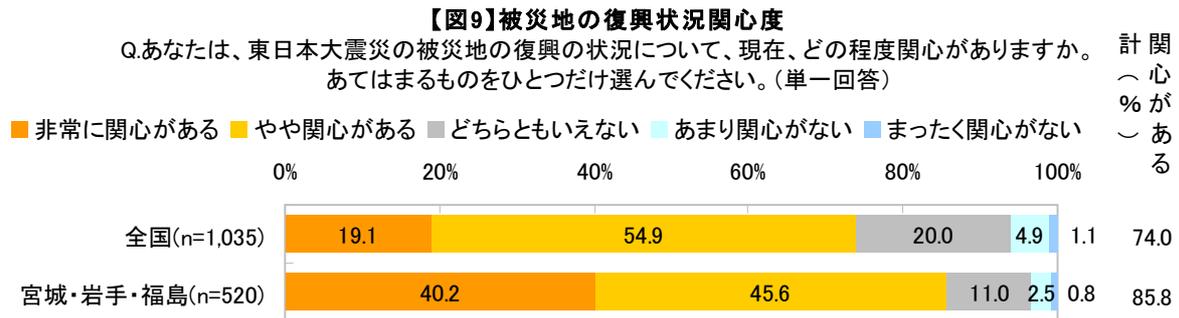


III-1 被災地の復興状況関心度

■被災地の復興状況に「関心がある」全国 74%、東北 3 県 86%

被災地の復興状況について、現在どの程度関心があるかを尋ねました。

「関心がある（非常に関心がある＋やや関心がある）」と答えた人は、全国で 74%、東北では 86%となりました。東日本大震災から 3 年が経過した現在においても、全国的に被災地に対する関心が高いことがうかがえます。【図 16】



Ⅲ-2 被災地の復興情報入手手段

■被災地の復興情報入手手段、トップは「テレビニュース」

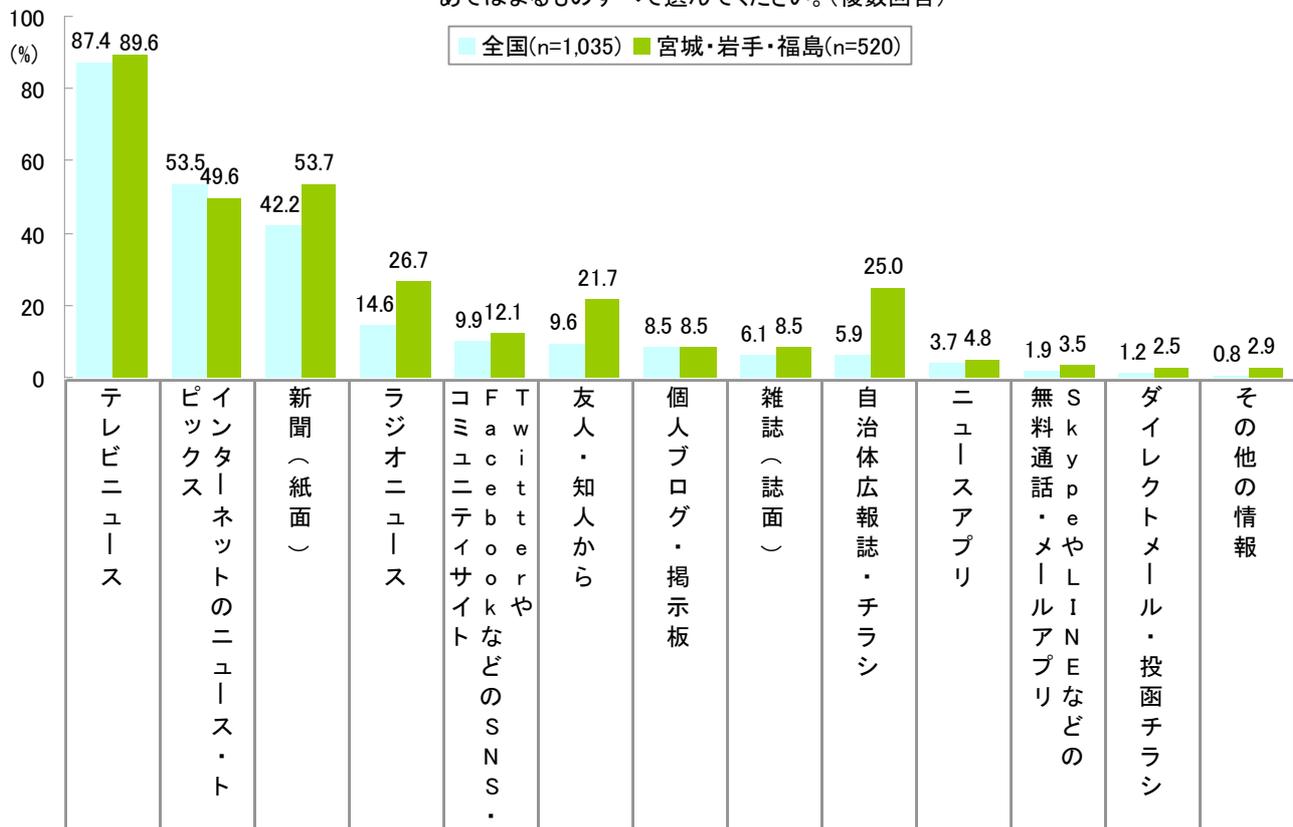
東日本大震災から約 3 年が経過し、発生時に比べ被災地の情報が得にくくなっています。被災地は今どうなっているか、復興情報を入手する情報源は何か尋ねました。

全国ではトップは「テレビニュース」で 87%、次いで「インターネットのニュース・トピックス」54%、「新聞」42%となりました。

一方、東北 3 県では「テレビニュース」が 90%とトップ、次いで「新聞」54%、「インターネットのニュース・トピックス」が 50%となりました。

東北 3 県では全国に比べ「ラジオニュース」「自治体広報誌・チラシ」が高く、被災地に関する復興情報を地元に着したメディアから情報を入手している様子が見えます。【図 10】

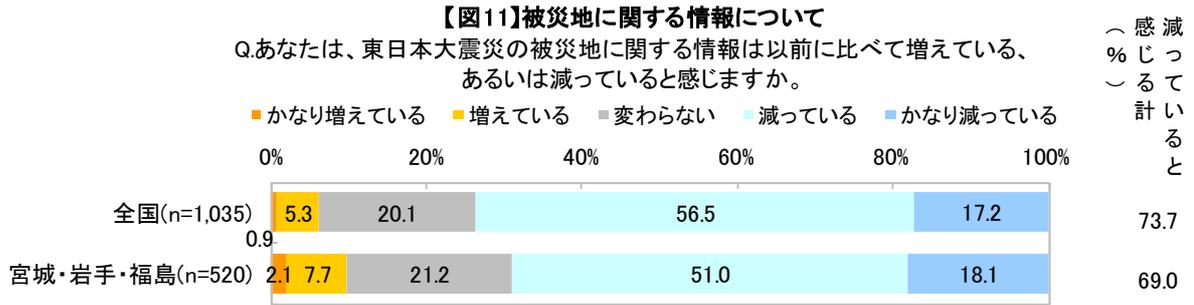
【図10】被災地の復興情報入手手段
 あなたが、東日本大震災の被災地の復興情報を入手する情報源は何ですか。
 あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答)



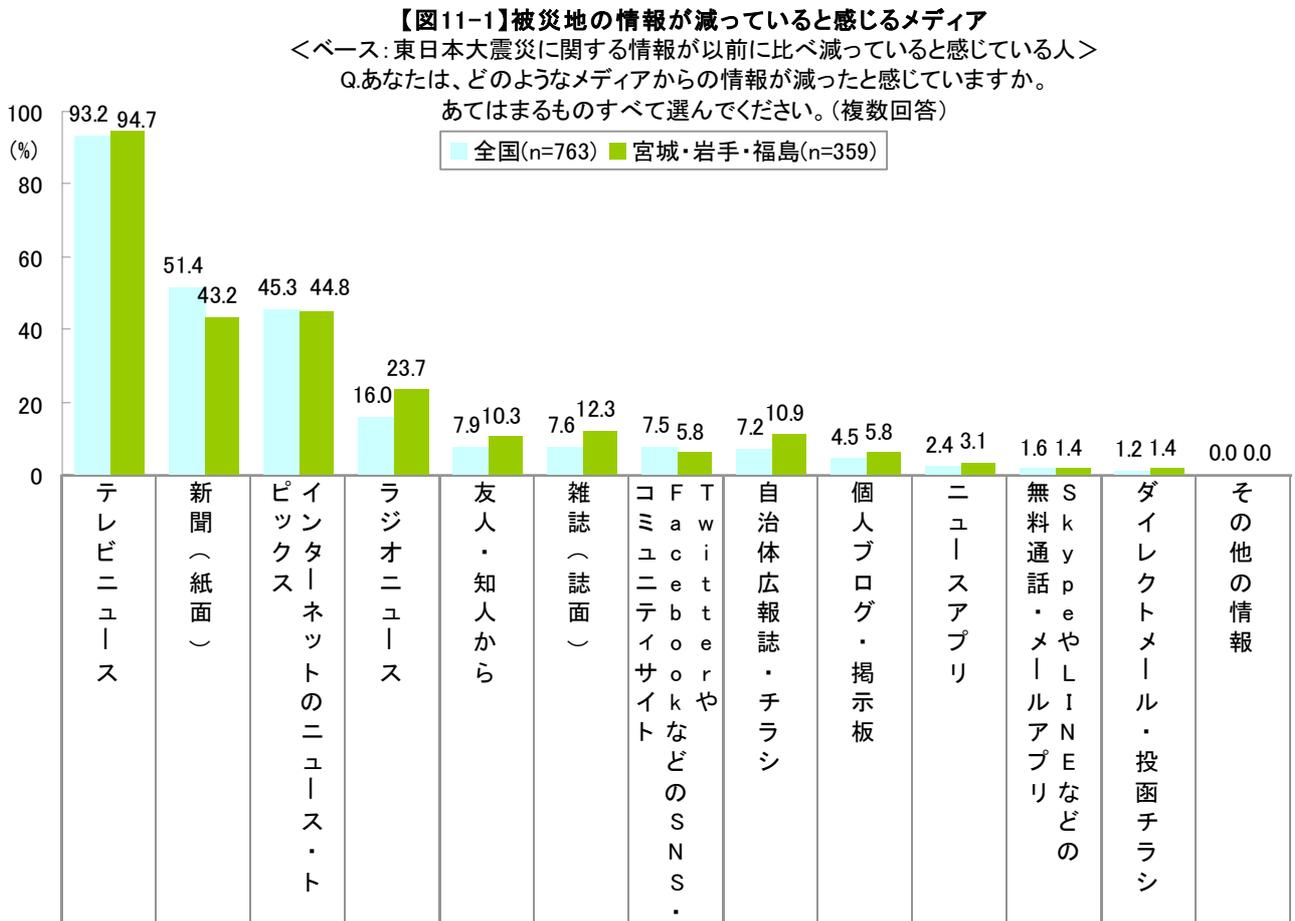
III-3 東日本大震災に関する情報の増減について

■東日本大震災に関する情報、7割の人が以前に比べ「減っている」
メディア別は「テレビニュース」がトップの9割

東日本大震災に関する情報が以前に比べ増えている、あるいは減っていると感じているか尋ねました。「減っている」と感じている人（かなり減っている+減っている）は全国で74%、東北3県で69%と、いずれも約7割の人が減っていると感じていることがわかりました。【図11】



さらに、減っていると回答した人に、どのようなメディアからの情報が減っていると感じているか尋ねたところ、全国、東北3県ともに9割以上の人が「テレビニュース」、4~5割の人が「新聞（紙面）」「インターネットのニュース・トピックス」からの情報が減っていると回答しています。【図11-1】



III-4 被災地への支援行動

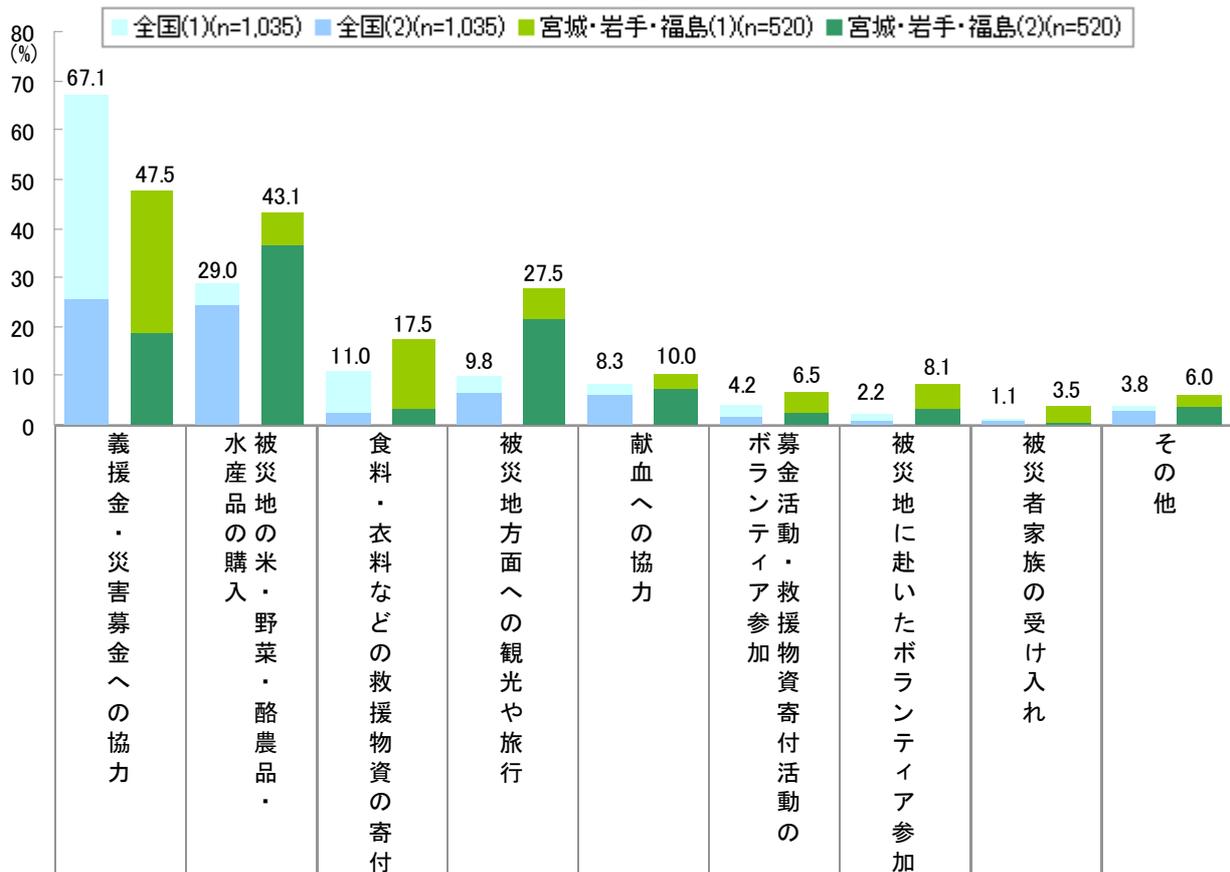
■被災地への支援行動、「義援金・災害基金への協力」がトップ

これまでに行ったことがある被災地への復興活動について尋ねたところ、全国・東北3県ともに「義援金・災害基金への協力」がトップになりました（全国67%、東北3県48%）。

東北3県においては、「義援金・災害基金への協力」に次いで「被災地の米・野菜・酪農品・水産品の購入」43%、「被災地方面への観光や旅行」28%がトップ3となっており、地元や近隣の被災地の生産品を購入したり、訪れることによる消費によって支援を行っていることが推察されます。【図12】

【図12】被災地への支援活動

- Q.(1)これまで、あなたが行った東日本大震災の被災地への支援行動をすべて選んでください。
 (複数回答)
- (2)また、最近1年以内に行った東日本大震災の被災地への支援行動をすべて選んでください。
 (複数回答)



III-5 被災地で不足している支援行動

■被災地で不足していると思う支援行動、全国と被災地で若干のズレ

被災地で不足していると思う支援行動について尋ねました。

全国、東北3県ともに「被災地の米・野菜・酪農品・水産品の購入」（全国39%、東北3県45%）が最も高い結果となりました。

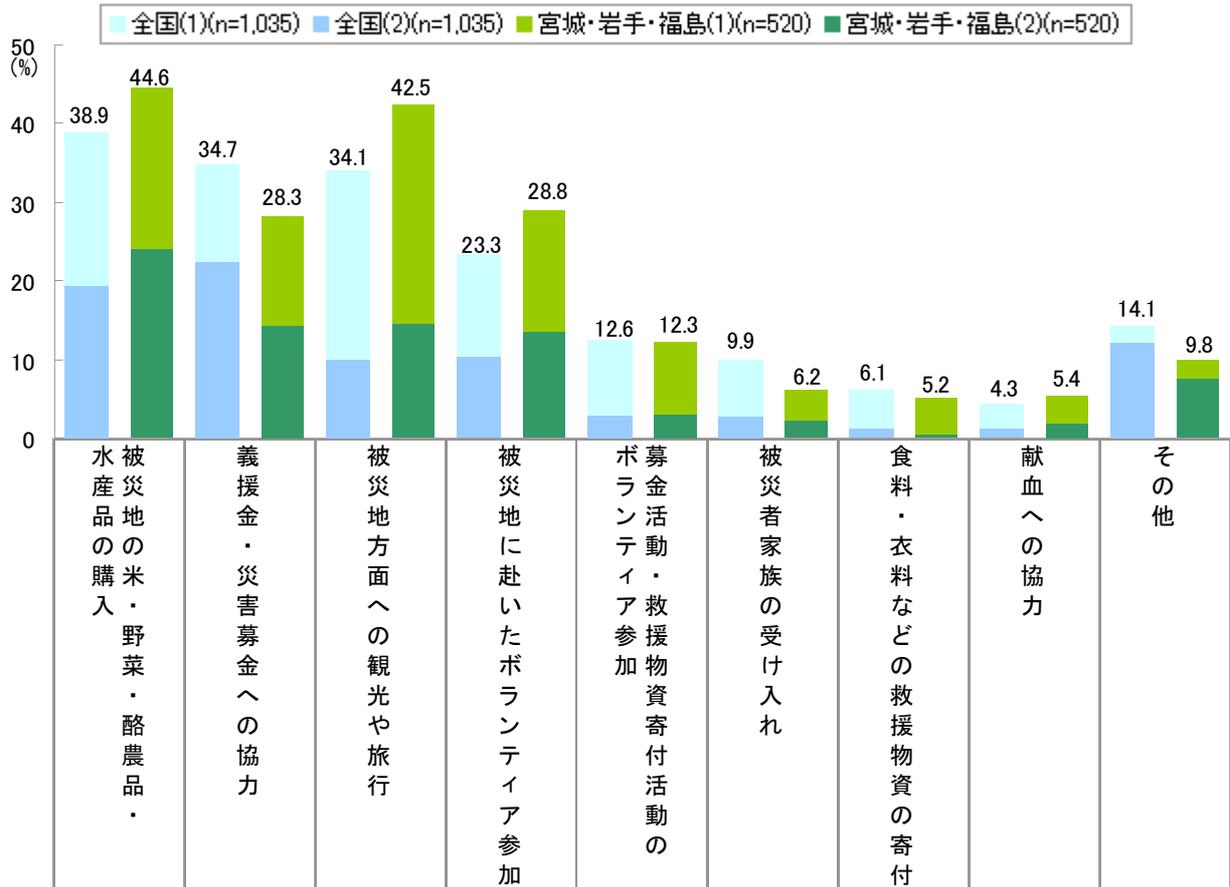
一方、東北3県では「被災地方面への観光や旅行」が43%と全国に比べ8ポイント高くなっています。また「募金活動・救援物資寄付活動のボランティア参加」も29%と全国に比べ6ポイント高くなっています。

全国で被災地に必要と考えられている支援のあり方と実際に被災地で必要とされている支援のあり方に、若干のズレが生じているようです。【図13】

【図13】被災地で不足している支援活動

Q.(1) 東日本大震災の被災地で不足している支援行動は何だと思えますか。
あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

(2) また、その中で、もっとも不足していると思う支援行動をひとつだけ選んでください。(単一回答)



IV-1 東北地方のイメージ

■東北地方のイメージ、トップ3は「自然が豊か」「食べ物がおいしい」「景観が美しい」

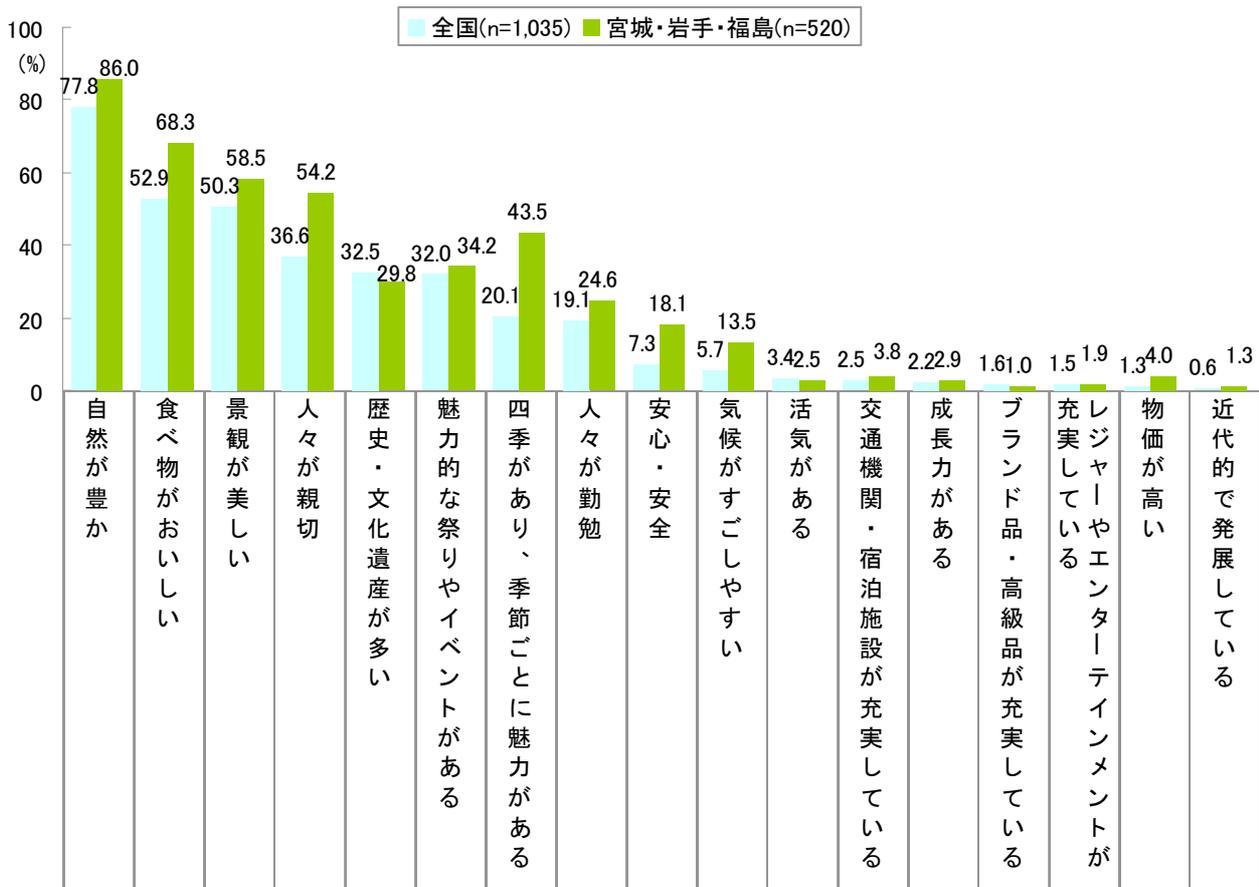
東日本大震災以降、全国から見た東北地方のイメージはどのようなものでしょうか。

全国、東北3県ともにトップは「自然が豊か」（全国78%、東北3県86%）、次いで「食べ物がおいしい」（全国53%、東北3県68%）、「景観が美しい」（全国50%、東北3県59%）となりました。

東北3県では「四季があり、季節ごとに魅力がある」が44%と全国に比べ23ポイント高くなっています。東北地方には全国の人が知らない‘四季の魅力’が秘められているようです。【図14】

【図14】東北地方のイメージ

Q.あなたが「東北地方」と聞いて思いつくイメージを次の中からすべてお知らせください。（複数回答）

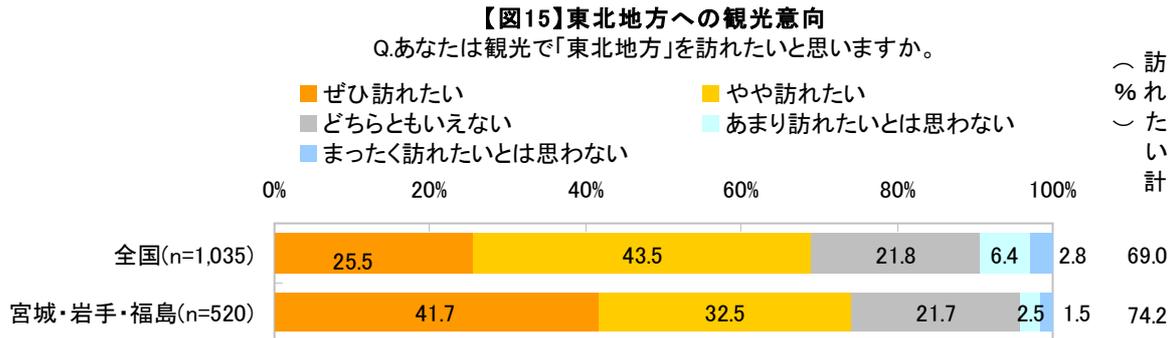


IV-2 東北地方への観光意向

■約7割が観光で東北地方を「訪れたい」

東北地方を観光で訪れてみたいか尋ねたところ、「訪れたい（ぜひ訪れたい+やや訪れたい）」と回答した人は、全国で69%と約7割の人が東北地方への観光意向があることがわかりました。

また、東北3県においても74%の人が観光で「訪れたい」と回答しています。【図15】



IV-3 東北地方で行ってみたい・行ったことがある・おすすめしたい観光地

■行ってみたい東北地方の観光地1位：蔵王温泉、
東北3県の地元人おすすめの観光地1位：松島

東北地方の観光地について伺ったところ、東北3県における調査では、人におすすめしたい観光地として「松島」が39%で最も高く、次いで「中尊寺」31%、「奥入瀬溪流」27%となりました。また、行ってみたい観光地としては「乳頭温泉郷・田沢湖温泉」31%が最も高く、次いで「スパリゾートハワイアンズ」が31%となっています。

地元の人におすすめする観光地、行ってみたいと思う観光地を旅の参考にしてみたいはいかがでしょうか。

【図16】

【図16】行ってみたい・行ったことがある・おすすめしたい観光地

Qあなたは、下記の東北地方の観光地の中で、(1)行ってみたいところ、(2)行ったことがあるところ、(3)人におすすめしたいところをお知らせください。(複数回答)

◆行ってみたい観光地(全国での調査)

順位	観光地(n=1035)	%
1	蔵王温泉(山形市)	32.5
2	松島(宮城郡松島町)	31.9
3	中尊寺(西磐井郡平泉町)	31.8
4	乳頭温泉郷・田沢湖温泉(十和田・八幡平)	29.0
5	十和田湖(十和田市)	28.2
6	三陸鉄道リアス線	26.1
7	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉(青森市)	24.7
8	スパリゾートハワイアンズ(いわき市)	23.2
9	十和田湖温泉郷・十和田湖湖畔温泉(十和田市)	22.8
	花巻温泉郷(花巻市)	

◆行ってみたい観光地(宮城・岩手・福島での調査)

順位	観光地(n=520)	%
1	乳頭温泉郷・田沢湖温泉(十和田・八幡平)	31.3
2	スパリゾートハワイアンズ(いわき市)	30.6
3	中尊寺(西磐井郡平泉町)	29.0
4	弘前公園・弘前城(弘前市)	28.5
6	松島(宮城郡松島町)	28.1
7	銀山温泉(尾花沢市)	27.9
8	秋保温泉(仙台市)	27.1
9	奥入瀬溪流(十和田市)	26.3
10	十和田湖(十和田市)	26.0
	アクアマリンふくしま(いわき市)	

◆行ったことがある観光地(全国での調査)

順位	観光地(n=1035)	%
1	松島(宮城郡松島町)	28.5
2	中尊寺(西磐井郡平泉町)	23.4
3	十和田湖(十和田市)	23.2
4	奥入瀬溪流(十和田市)	20.3
5	五色沼(北塩原村)	18.8
6	仙台城跡(青葉城址)(仙台市)	18.1
7	蔵王温泉(山形市)	15.9
8	若松城(鶴ヶ城)(会津若松市)	15.6
9	田沢湖(仙北市)	13.7
10	小岩井農場まきば園(岩手郡雫石町)	12.7

◆行ったことがある観光地(宮城・岩手・福島での調査)

順位	観光地(n=520)	%
1	松島(宮城郡松島町)	74.2
2	中尊寺(西磐井郡平泉町)	62.5
3	仙台城跡(青葉城址)(仙台市)	61.2
4	定禅寺通(仙台市)	60.6
5	小岩井農場まきば園(岩手郡雫石町)	60.4
6	秋保温泉(仙台市)	58.5
7	鳴子温泉郷(大崎市)	56.2
8	若松城(鶴ヶ城)(会津若松市)	55.4
9	五色沼(北塩原村)	51.9
10	十和田湖(十和田市)	46.2
	毛越寺/庭園(西磐井郡平泉町)	

◆人におすすめしたい観光地(全国での調査)

順位	観光地(n=1035)	%
1	松島(宮城郡松島町)	15.4
2	奥入瀬溪流(十和田市)	13.8
3	中尊寺(西磐井郡平泉町)	12.5
4	五色沼(北塩原村)	9.5
5	十和田湖(十和田市)	9.0
6	若松城(鶴ヶ城)(会津若松市)	7.0
7	弘前公園・弘前城(弘前市)	6.6
8	蔵王温泉(山形市)	6.1
	スパリゾートハワイアンズ(いわき市)	
10	龍泉洞・龍泉新洞科学館(岩泉町)	5.3

◆人におすすめしたい観光地(宮城・岩手・福島での調査)

順位	観光地(n=520)	%
1	松島(宮城郡松島町)	38.5
2	中尊寺(西磐井郡平泉町)	31.2
3	奥入瀬溪流(十和田市)	26.7
4	小岩井農場まきば園(岩手郡雫石町)	22.7
5	若松城(鶴ヶ城)(会津若松市)	21.3
6	鳴子温泉郷(大崎市)	21.0
7	五色沼(北塩原村)	20.4
8	秋保温泉(仙台市)	20.0
	お釜噴火口(蔵王町)	
10	十和田湖(十和田市)	18.8

IV-4 世界に対して日本が誇れること

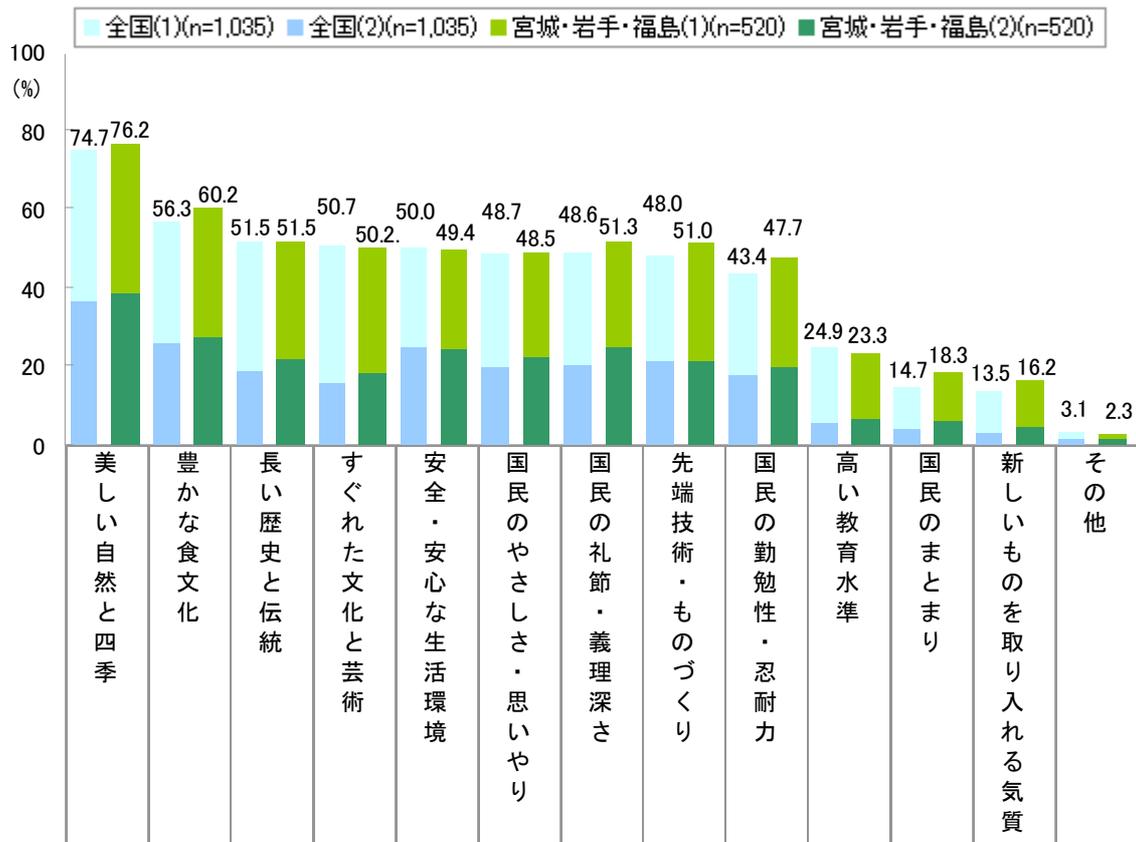
■日本に対して世界が誇れること、トップは「美しい自然と四季」

世界に対して日本が誇れることは何だと思うか尋ねました。

全国・東北3県ともに7割以上の人が「美しい自然と四季」を挙げて最も高く、次いで6割前後の人が「豊かな食文化」を挙げています。【図17】

【図17】世界に対して日本が誇れること

Q. (1)世界に対して日本が誇れると思うことを次の中からすべてお知らせください。(複数回答)
(2)またその中で最近強く意識するようになったものがあればすべてお知らせください。(複数回答)



Q. 東日本大震災からもうすぐ3年が経過します。この3年を通じて感じたこと、今までのこと、今後についてなどあなたのご意見・お気持ちをご記入ください。

<宮城県>

- ・宮城県在住ですが、津波被害があった地域の土地整理が今まさにおこなっている状況。復興に向けて動いていると感じるが、どのように復興するのかなかなか情報が見えない。復興計画みたいな情報が配信されることを願う。【宮城県・35歳男性】
- ・未曾有の災害を目の当たりにして、価値観に大きな変化があり人生に覚悟ができた。日本はここぞという底力を見せ危機を乗り越えた。国際的に今後も強い国であり続けることを示すことができた。一方で原子力問題は遠くない将来への大きな課題であり、未曾有の災害がまだ終わってはいないことを意識させられる。【宮城県・38歳男性】
- ・現在も大きな影響を受けておられる方は多数いらっしゃると思いますが、自分自身としてはずいぶん前のようなことのように感じるこの頃です。忘れてはいけないことですが、忘れるあるいは薄れることで前に進めるのだろうと考えています。とはいっても、これらを教訓として手を打つ所にはきちんと対応し将来に繋げてほしいものです。(やりすぎずそれなりにです)【宮城県・64歳男性】
- ・震災を経験しました。正直に死ぬのではないかと思いました。今でも震災で津波や電気やガスがとまりご飯もままならず余震に一分たりとも神経が休まる日が無かった事、鮮明に覚えています。地獄でした。思い出ただけで沢山の命が奪われた無念と恐怖で今だに涙が溢れます。少しの地震でも過敏です。動悸がします。怖いです。凄く辛かった。【宮城県・女性24歳】
- ・震災が起こった時に自分が下した判断が正しかったのか分からない事があり、いまだに心残りとなっています。想像したくはないですが、またこのような事が起こったときには、正しいか間違っているかは分からなくてもとにかく行動しようと思います。【宮城県・女性25歳】
- ・東日本大震災のことが風化しつつある。震災直後は日本はどうなってしまうのかと不安な気持ちになり先のことを考えることがままならなかった。3年たちあの日のことが嘘のようである。私自身被害はないに等しかったけれども、心に深い傷をおっている人がいるのは事実。震災直後は何かしなければと思っていた気持ちも恥ずかしながら薄れている自分がある。テレビで震災ボランティアのことを特集していた。記憶が薄れていたが、協力したいと思った。なので今後はボランティアとして参加したいと考えている。【宮城県・27歳女性】
- ・あつという間の3年間だった。震災は悪夢のように恐ろしい出来事だったが、自分が住んでいる地域では半年ぐらいで以前の状態に近いところまで復旧復興が進んだので恵まれていたと思う。今後は、またあれほどの災害に直面してももっと落ち着いて対応できるよう、準備を怠らないでいたい。【宮城県・女性35歳】
- ・個人レベルでの住宅の再建などはかなり進んできてほぼ元の暮らしに戻りつつあるように見えますが、其処此処に山積みになっていた瓦礫がすっかり姿を消してしまっても、あの災害をなかったコトには思えない。一人ひとりが身内や知人の犠牲者を思う時、誰もが心に深い悲しみを抱えながら残された日々を生きてゆくでしょう。【宮城県・女性66歳】

<岩手県>

- ・震災直後は無我夢中で復旧や支援活動などに地元の皆で協力し無理をしてでも何とか前にゆっくりと進んでいきました。ただ、その当時の上の動き出しが鈍過ぎて、下のもの達が本当に押し潰されそうになりながら必死で耐え抜いていました。やがて光明が一昨年年末に見えて其処からは滞りなく順調に事が運んでいる様に実感しております。【岩手県・男性41歳】
- ・日が経つにつれあんなに怖くて嫌だった思い出が薄れていってしまってるような気がします。それが悲しいです。震災で職場が機能しなく、それでもバイトなので何の援助も保証もなく・・・国は何もしてくれず、後記用料金も普通に請求が来て、被害者なのに何もしてもらえなかったのが一番勉強になりました。【岩手県・女性32歳】
- ・二年前に子どもが生まれ、震災前に生まれてたらと思うとぞっとします。子どもを抱えて震災にみまわれた方々は本当に大変だったと思います。また東日本大震災のような災害にあった時には、今度は子どもを守ら

なければいけないので、パニックにならないよう普段から訓練しておきたいと思います。【岩手県・女性 32 歳】

- ・被災県に住んでいるので（内陸）復興関連のニュースは毎日のように見ている。でもまだまだ進んでいないと思う。政府は海外への援助よりもっと被災地復興支援を強化するべきだと思う。食料品に関してはなるべく国産を買うようにして被災地産のものだとしても支援の一部と思って購入している。ボランティア等の支援を現地でした方がいいのだろうがなかなか大変なので、観光で訪れてみたいと思っている。阪神淡路大震災の時は復興がとても速かったように感じたが、今回も同様に早く復興できるように政府に頑張ってもらいたいと思う。【岩手県・女性 43 歳】
- ・職場の仕事中に被災し、命があることが嬉しい。信号がない道路を普段の何倍も時間をかけて危険を感じながら自宅に着いた日のことは、何年たっても忘れられない。年数を追うごとに恐怖感はむしろ増す。余震が続く度に、まだ癒されることはない。罪もない善良な人々が、将来ある人々が多数亡くなったことは、痛ましく思うばかりだ。安否を尋ねる携帯も固定電話も、規制がかかり家族の安否を確認するのに、かなりの日数を要した。携帯電話の用を全く果たさなかった。そのような不便を感じることはない整備を願う。【岩手県・64 歳】

<福島県>

- ・福島県民として震災を経験し、他の地方や海外から支援に来てくれる人々の思いやりの気持ちに感動させられた。その反面、実際に被災地を見たことのない人々からの被災地に対する批判や中傷があったのも事実。特に原発事故のあった福島県に対してはひどい話をたくさん聞いて悲しくなった。しかし、多くの企業や自治体が復興支援に乗り出している今は、不安は少し軽減された。偏見や差別のない社会を作るために自分にできることをやっつけていこうと思っている。【福島県・男性 20 歳】
- ・東北地方の出身として、先の震災にはとても心を痛めた。しかしながら、依然として傷跡は残るものの、以前通りの生活に近い水準で復興されている地方もあり、人の強さを感じさせられた。今後も東北の地で生活をしていき、少しでも何か役に立てることはないか、と考えながら生活していきたいと思う。【福島県・男性 27 歳】
- ・復興を通じて東北に新たな産業基盤を築くような計画を立ててもらいたい。また、福島が完全に破壊されたと言うようなデマを流す人間には法的措置を辞さない対応をしていただきたい。風評被害で東北が破壊されるのはうんざりです。【福島県・男性 32 歳】
- ・福島県に住んでますが、放射能関連の風評害は最近耳にしなくなりました。ただ福島県のお惣菜に対する偏見のようなものはまだ耳にすることもあり、悲しく思います。避難地域の人たちと地元住民との感覚的な温度差も最近感じられ、同じ県民同士でもあまり良い方向には向かってない気がします。【福島県・男性 42 歳】
- ・3 年が経過しましたが、あまり変わっていません。私は福島市在住ですが、相変わらず浪江町の住民は町に戻ることはできません。今後どのようになっていくのか本当に心配しています。今後健康問題が出てくるかもしれないと思うと不安に思います。これが東京で起きた震災であれば、もっと早い対応をしてくれていたのではないのでしょうか。【福島県・男性 56 歳】
- ・震災当時仕事を失い、福島県民である私は正直言って絶望的でした。でも逃げる場所もなく今現在もここで生きています。放射能の問題も日を追うごとに意識が薄れていっている自分や周りを感じます。津波にあった地域を訪れると本当に胸が痛みます。あの日のことをまだ鮮明に覚えています。【福島県・女性 21 歳】
- ・3 年たったというのに、未だにまだ仮設に住む被災者がいるのは復興したとは言えないと思う。原発問題がニュースで取り上げられる度に、震災を忘れられません。震災で亡くなった被災者の命を無駄にしないためにも、私達はまえに進まなくてはいけないと思う。教訓を生かし、二度とあの日を繰り返してはいけないと思う。【福島県・女性 28 歳】
- ・絆、絆と騒いでいたけど、結局は人間は自分勝手。生活は震災前に戻りつつあるのかもしれないが、優しさや思いやりはかえって薄れた気がする。原発も厳しい状況が続く、大地震がいつ起きてもおかしくない。将来に希望ももてない。【福島県・女性 28 歳】
- ・復興が進んでいるところと、進んでいないところの差が凄く、いまだに震災前の生活に戻れず、収入や住む

ところの確保が難しく、子供への悪影響（食事の栄養状態、進学をあきらめる等）が出て居る所が有ったりする。被災地とひとくくりしないで、その場所ごとのニーズが違うのにそのニーズに答えられていない。首都圏では、地震は過去の者、完全に他人事で被災地との温度差を強く感じる。もっと、東北の人は我慢しないで今の苦しい状況を全国に発信しなければならないと思う。【福島県・女性 33 歳】

- ・福島で被災し、あっという間の3年間でした。子どもたちの健康が心配なので、放射能の影響でなにか病気が発生した時の保障をしっかりとさせていただきたいと思います。【福島県・女性 38 歳】
- ・震災以来、生活が全く変わってしまった。以前は普通にできていた何でもないことができなくなったことは、特に幼い子供達への影響が非常に大きく、誠に憂うべきことだと思う。被災地住民のほとんどが以前の生活とは程遠い状況の中で苦しんでいるにも関わらず、政府、地方自治体、東電の対応には怒りを禁じえないだけでなく、オリンピック招致などにうつつを抜かしている余裕がどこにあるのかと強く訴えたい。オリンピック招致のために、被災地の復興がますます滞っている現実、格差の広がり、これに加えて4月からの増税、この現実は弱者淘汰以外の何ものでもない。【福島県・女性 68 歳】

<その他の都道府県>

- ・あれからもう3年もたったんだなど、被災地にいたわけじゃないから他人事のように感じてしまう。実際に被害にあった方とは時間の感じ方も違うのだろうなと思った。【北海道・女性 20 歳】
- ・三年も経ったというのにほとんど復興できていない。皆が忘れ去るのを待っているようだ。【秋田県・男性 62 歳】
- ・東日本大震災を経験して人の優しさを実感しています。日本人が世界一優しく、また温かい心を持っていると思います。【茨城県・男性 41 歳】
- ・募金活動を続ける。復興がどのくらい進んでいるのか等の状況を把握し、資金が必要なら増税により賄い1日でも早い復興の援助をお願いしたい。【群馬県・女性 57 歳】
- ・東北地方の復興も気にはなるが、それ以上にどうしても自分と家族が一番大事なので、首都圏直下型の地震がいつ起こるのかがとても不安。【埼玉県・男性 61 歳】
- ・ある程度仕方ないかもしれませんが震災が風化していて周りの人の関心が薄れているように思います。後ろを振り向いてもダメかもしれませんが、教訓として心の奥底に常に感じていたいと思います。【東京都・男性 43 歳】
- ・のどもと過ぎれば・・・のごとく国民の関心が薄くなっているような気がする。福島原発の処理が進んでいない。各家庭、個人で少しずつ震災対応をしていくべきだと思う。【富山県・男性 55 歳】
- ・東日本大震災があるまで地震や津波に対しての意識が薄かったが、非常持ち出し袋を用意するなど対策をするようになった。また余震などがあるとすごく不安で怖くなる。今後原子力発電はどうなるのか、被災地の方々の心のケアや水産物などの風評被害について心配です。【山梨県・女性 27 歳】
- ・何が自分にできるのかわからないまま、3年が過ぎてしまった。観光に行っても良いものか？考えてしまう。被災地では、大変な生活を送っている人も、まだ多くいるのに、その地域に楽しみ目的の旅行は抵抗を感じる・・・。【岐阜県・女性 40 歳】
- ・次に起こるかも知れない「東海沖地震」への準備と心構えをしっかりと持ち続けて行きたいと思っています。【愛知県・男性 57 歳】
- ・正直言って、東北地方には一度も行ったことがありませんでした。以前から訪れたいとは思っていたのですが、災害関連だけでなく、元気なうちにゆっくりと旅をしたいと思っています。特に温泉地めぐりを希望しています。【京都府・男性 63 歳】
- ・あのような光景を初めて見て衝撃とショックで、島国の怖さを改めて知った感じでした。大きな困難の中、被災者の方々の強さに心打たれました。震災の後、関西でも東北展のような催しが増えていきますし、少しでも東北の方に貢献できればと思っています。【大阪府・女性 42 歳】
- ・世間では忘れ去られそうな雰囲気もある震災ですが、まだまだ心に傷のある方々が居られます。心ある方々

で支援を続けましょう！【岡山県・男性 43 歳】

- ・地震・津波の怖さを知った。首都の東京が震災にあったらものすごく大変計り知れない事が起こるだろうと思うそれが怖い。家族・自分の身を守るための防災グッズの準備は必要だと思う。【広島県・女性 34 歳】
- ・時々震災のことを忘れないようにテレビでも被災地の話題を取り上げているが、被災地からかなり距離が離れていることもあり、自分自身も忘れがちになっている。【山口県・女性 42 歳】
- ・昨年、福島県富岡町の原発付近で保護された猫の里親になりました。今もたくさんの動物たちが野良になってると聞きました。今後、どこで起こるか分からない震災に向けて、仮設住宅等にも一緒に避難できる様にして欲しいです。ペットも家族です。【徳島県・男性 56 歳】
- ・いつどこで天災や人災が起こるともわからないため、後悔しない生き方、生活を心がけている。また、復興がなかなか進まない中、頑張っている東北の人や心に深い傷を負った人たちができるだけ心を穏やかに過ごせるようになればと思う。【福岡県・女性 29 歳】
- ・3 年間経過した割には復興が遅い。政治の停滞がもたらしたものと思う。阪神淡路のときはあれだけ早かったのと思う。【長崎県・男性 59 歳】
- ・あっという間に 3 年が経つんだなあ〜と思う。東北地方の現状がどうなっているのか、私自身徐々に関心が無くなってきていて、今改めて考えてみようと思う。【熊本県・女性 33 歳】
- ・復興税と言って国民から税金を徴収しているが実査に使われているのか疑問に思います。確実に使われることを望みます。税金を無駄に使わないことを、願います。また、ちゃんと管理してください。【沖縄県・女性 48 歳】

－ 調査結果の引用・転載等に関するお問い合わせ先 －

株式会社マクロミル 広報室：高橋

TEL：03-6716-0707 MAIL: press@macromill.com URL：<http://www.macromill.com/>